

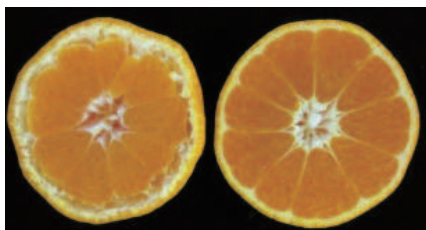
植物ホルモン剤利用によるウンシュミカンの浮皮軽減技術

(独)農研機構 果樹研究所、静岡県農林技術研究所 果樹研究センター、和歌山県果樹試験場

温暖化により、ウンシュウミカンの浮皮が顕著になり、食味の低下や腐敗の増加が予想されます。このため、浮皮軽減技術として、植物ホルモン剤のジベレリンとプロヒドロジャスモンを混合して散布する方法を検討し、ジベレリンの低濃度化などにより、生産現場で利用しやすい技術を開発しました。

1 ウンシュウミカンの浮皮

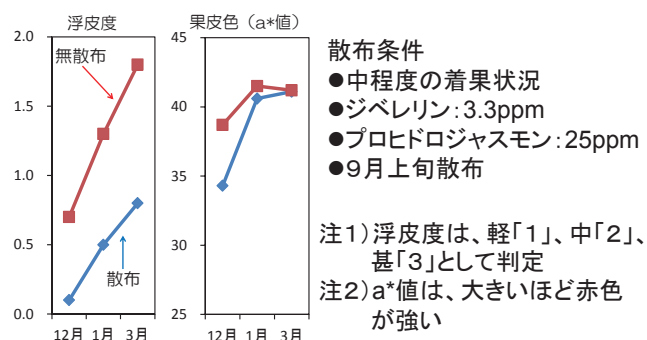
- 現在の気温より継続的(発芽期～果実成熟期)に2℃高い気温下で栽培しました。
- 2℃気温が高いと、浮皮が2倍程度増加しました。
- したがって、温暖化が進むと、浮皮の発生がより顕著になることが予想されます。



浮皮果(左)と正常果(右)
注)浮皮果は、食味が悪く、腐りやすいです。

2 貯蔵ミカン向けの浮皮軽減技術

- 浮皮軽減には、ジベレリンとプロヒドロジャスモンを混合して9月上旬に散布する方法が有効です。
- 収穫時には、着色が遅れますが、貯蔵中に着色させて、出荷(1～3月)します。



3 貯蔵しないミカン向けの浮皮軽減技術

- 貯蔵ミカン向けよりも低いジベレリン濃度(1ppm)でも、浮皮を軽減できることを見いだしました。
- 下図のように散布すると、着色遅延を1週間程度以内に軽減でき、貯蔵せず収穫後すぐに出荷する作型にも利用出来ます。

8月	9月	10月	11月	12月
----	----	-----	-----	-----

GA (1または3.3ppm) と PDJ (25ppm) を混合した薬液を調製し散布

無散布と同様もしくは1週間遅れで収穫

注1) 8月下旬～9月上旬が散布時期の目安
注2) 着色遅延が目立つ場合には、散布時期を早くする
注3) GAはジベレリン、PDJはプロヒドロジャスモン

- ジベレリンを1ppmで使用すれば、薬剤購入費用を低減できます。

薬剤購入価格の比較

薬剤	円/10a
GA:1ppm PDJ:25ppm	2,907
カルシウム剤 (セルバイン)	3,018
オーキシシン剤 (フィガロン)	9,150
GA:3.3ppm PDJ:25ppm	7,540

注1) 浮皮軽減農薬の購入価格の比較
注2) いずれも1回の散布量は400L/10a
注3) 散布回数は、農薬登録条件の最大回数